

## 次に狙われるのは、あなたの勤務先かも

国会は5日に閉会して、早い冬休みに入った。最近の国会は、立法府としての役割を果たしていない。

毎日新聞5日社説「立法府軽視も継承された」も厳しく指摘する。新型コロナウイルスの感染が再び拡大し、国民に不安が広がっている。日本学術会議が推薦した会員候補のうち6人を菅義偉首相が任命しなかった問題をはじめ、多くの課題も残されたままだ。そんな中で早々と国会を閉じるのは到底理解できない。

臨時国会では、新型コロナだけでなく、安倍前首相の「桜を見る会」前夜祭をめぐる問題も焦点となった。学術会議問題は、首相のあいまい答弁もあり、議論も中途半端になってしまった。放置できない異常事態が続いている。表題「望月衣塑子の政治時評」(『週刊金曜日』11月27日)を抜粋して紹介したい。



臨時国会が召集され、日本学術会議会員の任命拒否問題を巡る質疑が始まった。菅義偉首相が「総合的・俯瞰的」を繰り返し、任命拒否を正当化することは予想された。政治プロセスの説明を放棄する安倍政権の路線を引き継いでいるからだ。だが、実際は予想以上にひどい代物だった。多くの国民が、彼の答弁能力の低さに驚いたのではないか。しどろもどろで目は泳ぎ、官僚のメモ頼み。答えられないことを恥じることなく開き直る……。官房長官時代からウォッチしてきたが、これが彼の実像だ。

「総合的・俯瞰的な観点で判断した」と言いながら、105人の推薦リストは「見ていない」。東京大学の加藤陽子教授(歴史学)がかつて天皇に進講したことや、政府委員を務めていたことも「承知していません」。あまつさえ、加藤教授以外の5人は「名前さえ知らなかった」というのだから、何をどう「俯瞰」したのか。流行語大賞にもノミネートされたが、けだし歴史的な「迷言」だろう。

過去の政府答弁と矛盾する判断をなぜしたのか。政府は拒否の理由を一切、明らかにしていないが、主導したのは警察官僚出身の杉田和博・官房副長官とされる。「思想信条が政府の方針に合わない」と判断した可能性が強いという。また、ある自民党議員は「学術会議は共産党だから」と私の取材に答えた。これは「赤狩り」よりも深刻だ。拒否の理由がわからない以上、反論もできない。

ターゲットは学者や国家公務員に限らない。政府の方針に従わなければ一般企業もメディアも「反政府的」とされる。萎縮が広がり、首相や官邸・官僚の顔色をうかがうようになる。既に一部メディアや企業はそうになっている。次に狙われるのは、あなたやあなたの勤務先かも知れない。

(2020年12月7日)